

日五廿月 磐城時報

編輯 磐城時報編輯部 印刷 磐城時報印刷部 發行 磐城時報發行部

平町常例町會招集

新川改修の負擔金起債案外 二十八日午後一時開會

平町では二十八日午後一時から警署で青年訓練生並に分會員未常例町會を招集するが、議案は教育者の實業演習を行つたが新川改修工による地元負擔金成績頗る良好の起債案がなるもので他は小學校敷地買収費一萬圓起債の議決を内務省の指令で二千五百圓に減額の決議變更、以下追加更正豫算、教員退職慰勞金、區長及區長代理推選、宿附の採納等である。

鈴木氏推薦

度量計量關係も 石城連署組合、藥劑師會石城支部、度量、計量器兩販賣組合では二十四日臨時總會を開き各々も平町二丁目鈴木邦三郎氏を所得調査委員候補推薦する事を満場一致で決議直ちに政友部會に玉川村在郷軍人分會では去二十三日午前九時から神谷村東部射た。

實彈射擊

玉川村在郷軍人分會では去二十三日午前九時から神谷村東部射た。

妥協か決戦か?

注目される今日政友幹部會 民政側は野崎、大平、吉村氏に決定 所得 委員改選接追 調査

(櫻報)所得調査委員改選期の接近決定直ちに全郡下に亘り第二に迫り連れ各方面ともに猛烈な前段の實戦を開始運動を開始す哨戦に活氣漂つてゐる。即ち民れば又別派民政側は野崎氏を中政側は二十三日幹部會を招集協心とする幹部會を二十七日午後見んとして觀衆多く百澤、石川一と云ふべく今年度のチームの結束郡南より大平陸四郎(一時から開催された正式に野等の活躍で三点を先取したが石に比して数段の見劣りがする。勿來)中央部から吉村安次郎(崎滿藏氏の擁立を決定する管で川の制球悪しく古河直ちに二点△第二戦入山對平クラブは入山平町)の兩氏を萬場一致で擁立民政側前記三氏の統制ある運動を奪還し追撃急なるものあり小猛打を發揮して十五對二と大平町南町六河部秀憲(四五)は去平町二丁目尼子自動車運轉手吉見込引續取調を進めてゐる。

磐陽野球第一日

古河に辛勝した磐中と 全湯本に惨敗した平商 兩花形チームの無力

磐陽野球聯盟主催磐陽野球大會野、百澤等舊選手が退陣してか第一日二十三日午前九時から青らは磐中軍の打撃全く衰え敵失沼町長の試球式により高月對古河石田投手の悪調で八對五の第一戦の幕は切つて落され辛勝したが、秋山、柳澤、大審判、水竹、佐藤、この平等新人が此の日の様に打撃振日新編成の磐中新入軍の活躍はない以上先ず心もとなない弱チから推して假令決戦となつても上面の余程の好調ない限り優勝準決勝は来る三十日磐中對入山に全治一週間を要する傷害を加

梨果品評即賣會

二十四日褒賞授與 即賣百五十箱

郡農會主催郡下梨果品評即賣會月二十日午後七時頃豫ねて知りは二十三日から二日間亘り平合の平町驛前福住屋旅館齋藤留署會議室で開出品二百七十箱四郎方に至り山水畫の軸物三本を抵當として現金十五圓を借り上げて翌日更らに同家に至り前記軸物を他に賣却して支拂ふがらと稱して抵當物を取り戻したと騙取、齋藤から段々督促されたが言を左右して支拂はないので二十五日平署に檢舉詐欺罪として取調中。

縣下庭球の覇權を握る

古河鈴木組が 去二十三日田村郡三春町田村中大會に出場した好間村古河炭礦庭球部副將鈴木、田中組は鐵補に踏み込んで一網打盡に檢舉本署に引致の上嚴重取調中であるが、一味は前科二犯草野一郎(四五)一犯萩野吉之助(三七)菅原英吉(三八)鈴木三明(三七)橋本庄助(四三)外二名で今春殆んど連夜に亘り常習的に花合を開帳してゐたもので連類者も多い

巧みに騙取

自動車事故 老婆轢かる

國際事情

大講演會 玉川空前の盛會

玉川村男女青年團聯合秋季總會は二十四日午前九時から同村小學校に於いて開催、豫算、決算その他の協議後午後一時から講演會に移り前伯國大使館參事官赤松祐之氏、福島縣社會課長今井清武兩氏の國際事情大講演あり聽衆七百名で空前の盛會を呈した。

常習賭博檢舉

昨夜曲田で 一座八名の 山野邊藥局

平窪村大字下平窪字曲田農佐藤忠吉(四七)方で昨二十四日午後四時頃から八時頃まで現金賭博の花合せ開催してゐるのを探知した平署では安藤部長以下現場に踏み込んで一網打盡に檢舉本署に引致の上嚴重取調中であるが、一味は前科二犯草野一郎(四五)一犯萩野吉之助(三七)菅原英吉(三八)鈴木三明(三七)橋本庄助(四三)外二名で今春殆んど連夜に亘り常習的に花合を開帳してゐたもので連類者も多い

石城郡の事業界
代表的會社と商店その他
附...その經營に活躍する人々

古河石炭鑛業株式會社

古河直系の優良會社で
常磐炭界機械化の先驅

資本金一千萬圓(全額拂込済)
古河直系の大炭礦で整然たる内もので、年産額二十萬噸内外。
容を具備し流石に古河財閥の經路は主として鐵道納炭(三三%)
營として相應しいものがある製糸、製紙會社(三三%)一般家庭
大正四年舊好間炭礦を買収し今用(三三%)となつてゐる。

採炭事業の機械化は

古河炭礦の誇り

常磐各炭礦に魁けて

截炭機、水洗攪炭機等を使用

古河炭礦では作業の機械化に關した。その後九州、北海道方面各
し早くから努力を拂つてゐたが炭礦で塵埃空氣によるコイルピ
今から十餘年前の去る大正十
年米國からコイル、カツ、(截
炭機)三臺を購入し試験的に使
用した。その頃の常磐各炭礦の
採炭は何れも、ハンによつた
もので同炭礦で試験した一臺二
萬圓(十五馬力)の
一の威力は常磐炭界の驚異であ
つた。試験の結果、和二年に至
り更に同機二臺を購入手計五臺と
して主として同機により採炭を
行ふ事になり一躍能率を増進し
優秀なる成績を擧げる事が出来
注してゐるが、その苦心の大體
し。その安全を確かめてから掘

坑内安全を期するため

屏ダムを使用

一個九千圓の高價なもの

水災に對する細心の注意

進するといふ確實な手段を講じたダムは屏ダムは平素はその屏
てゐるため湧水が多いと見られを開けておけば普通坑道と何等
てゐる常磐炭礦に於て同炭礦が變る處なく必要の場合に屏を閉
災害に襲はれず従業員も安心しめてダムの働らきをなすもので
て作業に従事してゐる事が出来同炭礦で昭和二年にドイツから
るわけである。之ればかりでな購入したものには四組、一組の
同炭礦では一度び危険な出水格九千圓といふ高價なものである
に備へるためダムの設備を有する。現在の第一新斜坑内にはこ
てゐる。昔のダムは坑道を閉めれば同炭礦は將來水害に見舞はれる
切るもので一度び閉鎖すれば同炭礦は將來水害に見舞はれる
の奥には入れなかつたものであ事絶無と言ふ可きである。

三千余の従業員の

福利増進の施設

首腦部と完全に意志疏通

古河炭礦の従業員は職員、職夫疏通してゐる事は他炭礦にその
を合せて三千名、この治安及び比を見ない事である。体育方面
福利に關しては古河直系の會社では古河好間炭礦體育會があり
だけに流石完全なる施設を見る。庭球、野球、弓術、柔道、劍道
事が出来る。之が専任係員を置 水泳、陸上競技部がある。最近
は一般に司掌せしめてゐる。小
館及び小田郷の二所に大共同浴
場を設け入浴全部無料、飲料水
は好間川より揚水し浸砂法によ
り濾過の上給水してゐる。諸願醫局は小館にあるが、院長原重
は調査私設消防隊等の設備もあり熊氏は醫學博士の學位を有し、
協調機關としては自治會の設その他醫師と共に従業員及び家
けあり、職夫の共濟、修養、勤族の診療に従事してゐる。同炭
衛生、貯蓄、慰安、娛樂、保健、礦の在郷軍人分會は常磐炭礦隨
福利増進、労働條件の維持改善香月分會長以下現在會員二百五
等に關し研究實行に努めてゐる十名、會員貯金は六千圓を突破
ので炭礦首腦部と完全に意志がしてゐる。

原博士

醫局長

事業機械化の敢行者

所長下野十朗博士

蒼鉛の新製法を發見した

技術者で學者

古河炭礦鑛業所長下野十朗氏は人で同鑛が常磐各炭礦に魁けて
帝大工科探鑛冶金部出身の技術作業の機械化を敢行したのは下
者で卒業後古河に入り、足尾銅野所長就任以來の事で同氏の不
山技師となり同鑛に勤務する大減の功績と見られてゐる。同氏
正十五年好間鑛業所長となつたは足尾銅山の煙の中に含まれて

安孫子虎雄氏

精密な事務家

經理係長安孫子虎雄氏は大正九
年まで古河直系の岩手縣水澤銅
山に勤務してゐた人で、それ以
來好間に來り事務方面を統べて
る人で圓熟した人格者、精密
な事務家、而も接する人をして
るになつたかしみを抱かせる天
才的外交家である。下野所長
を補佐する女房役として得難き
人である。

東北に覇を唱える

古河炭礦の庭球部

古河炭鑛體育部の事は別項の通
りであるが、殊に優秀な成績を
示してゐるのは庭球部で、常に
各種の大會で優勝してゐるが、
本年は仙臺市で開催された仙臺
鑛山監督局管内庭球大會に於て
同炭礦から出場した大石、安齋
組、野村、小森山組、二組共決
勝に勝ち残り同業者を驚かした
更に二十三日三春町に開かれた
縣下庭球大會に於ては副將組鈴木、
田中組が出場したにも拘は
す優勝の榮を擔ひ優勝カップ
を授けられた。先輩に矢野工學
士あり、部長に安齋甲太郎氏を
有する同鑛庭球部は今や東北に

坑内係長

矢野工學士

採炭方面の係長矢野工學士は帝
大探鑛冶金科出身、福岡縣人。
大正七年に好間鑛業所技師とし
て就任したもので同炭礦が別項
の如く整然たる内容を具備する
に至るまで第一線に於ける矢野
氏の苦心亦一通りではなかつた
町を生れ本年四十九歳の働盛今や同鑛が常磐炭礦に於いて事
に拘泥せぬ反面に於て緻密な頭
腦の持主でも不斷の努力家で見
逃してはならぬ。

見習徒弟募集

委細面談
加納活版所

和島耳鼻咽喉科醫院

腫物、おでき切らずに治る
ハレモノ
良薬 八方散
平一(電六九九) 水野藥局